

論文審査の結果の要旨

氏名 板谷 和也

フランスは、わが国と同様にいったん軌道系交通を廃止した経緯を持ちながら、最近になって再び、都市再生の道具として軌道系交通の整備を続けており、それを支える仕組みとして、行政主導で策定する総合的な都市圏交通計画と、その実効性を担保する合意形成制度と財源制度が大きな役割を果たしていると言われている。しかし、フランスの都市圏交通計画の実効性を高めている計画制度とその運用実態については、断片的な紹介に留まっており、現行の計画制度の相互関係と歴史的な成立経緯、ならびに事例分析による運用実態の詳細把握は行われておらず、制度的理由の本質を明確に把握するに至っていない。

本論文は、このような問題意識のもとに、フランスにおける都市圏交通計画を対象として、国の政策目標に貢献する計画の立案と実施を支える計画制度の特徴、経年変化、運用実態を明らかにしたものであり、その成果は、わが国の都市圏交通計画の改善に貴重な知見を与えている。

第1章では、このような研究の背景と目的を示し、フランスの都市圏交通計画を対象とする理由を述べている。

第2章は、フランス及びわが国における、フランス都市圏交通計画関連研究のレビューを行い、フランスの都市圏交通計画とその周辺の制度について、それらの経年変化と理由の把握、ならびに事例研究を通じた運用実態把握が必要であることを示している。

第3章では、自動車依存からの脱却を目指し、交通権を定義し、社会的便益評価を導入した、1982年の国内交通基本法の制定以降、都市圏交通計画(PDU)の概念整理、パイロット事業、普及失敗を経て、1996年のLAURE法に対応した計画目標、計画内容、実施機関の明確化と策定義務付けによる計画制度の整備が、PDU普及の重要な契機となったことを明らかにしている。LAURE法は、大気質の改善とエネルギー効率の改善を主眼とするものであり、交通の利用者のみではなく、市民全体に関わる政策目標との連携により、計画内容の明確化や義務化が可能になったものと指摘している。

第4章では、フランスにおける都市圏交通計画の財源制度を検討し、1974年に経済活動を支える目的から通勤交通を対象に設立された交通負担金制度について、1982年の国内基本法の制定以降は、PDUを立案し実施する都市圏交通機構にとっての直接的かつ確実かつ自由に使途を決定できる財源として有効に使われるように変容したことを指摘している。この結果、現在の交通負担金制度は、国の計画枠組みの一つとして、制限税率の規定を用いて国の意向を各都市圏の政策に反映させるための方法として有効に機能していると指摘している。

第5章では、フランスの合意形成手法と意思決定過程に関する枠組みを整理し、議会を中心とした意思決定システムの中で住民等に対する情報公開及び意見収集を実施するための仕組みとして、公開協議、事前協議、公開事前調査、住民投票の四種類の現行手法の特徴を整理している。特に、事前協議と公開事前調査について、その具体的内容を把握し、

PDU 策定の計画段階と事業実施段階の相違点を明らかにし、議会を中心とした意思決定過程の中で計画段階と実施段階の二段階にわたる合意形成システムとなっていることが、円滑な合意形成に際して有効であると指摘している。

第 6 章では、オルレアン都市圏の事例を通して、PDU の計画内容、構想計画策定プロセス、交通関係財源の内訳、策定組織の相互関係など、フランスの交通計画制度が実際にどのように適用されているかの詳細を明らかにしている。

最後に、第 7 章では、本研究によって得られた知見に基づき、フランスの都市圏交通計画制度が持つ高い実効性の要因について、以下の要因が影響していると整理している。

- 1) 計画策定組織が行政内で確立している
- 2) 計画策定・政策実施に関して行政の自由度が大きい
- 3) 計画の目標に関して一定の制限がある
- 4) 計画策定に関して情報公開・意見聴取義務がある
- 5) 独自に用途を決められる財源がある
- 6) 以上の点に関して法的に規定されている

これらの要因がフランスで実現してきた経緯から、全てを一度に実現させるのは難しいため、わが国における現状を改善するための方策として、まず、国内交通基本法に相当する交通政策の基本目標の明確化を行い、次に、都市圏交通計画の目的、内容、実施機関を明確にし、その計画提案の実効性を担保するための自主財源確保の方法を検討していくことが必要であると指摘している。

なお、本論文第 3 章、第 5 章、第 6 章は、原田昇との共同研究をベースに加筆・修正したものであるが、論文提出者が主体となって分析したもので、論文提出者の寄与が十分であると判断する。

したがって、博士(環境学)の学位を授与できると認める。